

輝け！シン尾花沢中

第130号

令和8年

10月29日

長根の山の ふもとはら 遠いゆかりの おもだかの

狂言と能の世界に浸って①～芸術鑑賞教室～

20日（火）、第2回芸術鑑賞教室が行われ、本格的な狂言と能の世界を堪能しました。

普段馴染みのない狂言と能ですので、尾中生が興味・関心をもてるか、不安でした。しかし、9月に行われた第1回で狂言や能を学習していたことや、狂言「柿山伏」を小学校の時に学習していたことなどもあり、身を乗り出して鑑賞していました。また、鶏の鳴き声や立ち居振る舞いの所作などの体験コーナーもあり、笑顔にあふれたひとときとなりました。

2回にわたって、尾中生の振り返りを紹介します。

佐藤さん（2年）：印象に残ったことの1つ目は動物の鳴き声です。昔と今では鳴き声が違うことを初めて知ることができたし、「こんな鳴き声なんだ」と驚きました。2つ目は、囃子方の演奏です。派手すぎない落ち着いた音楽で一体感があり、圧倒されました。太鼓をたたくりズムや笛の音を暗譜して長い時間演奏するのが「さすがだな」と思いました。最初は、狂言や能がどんなものか分かりませんでしたが、意外と面白いことが分かったし、昔の言葉や様々な動きに型があることも知ることができました。楽しかったです。

西尾さん：能の内容は分かっていましたが、プロの方々が能の独特の表現を演じていて、別の話のように感じました。また、今回のように人前に立つことができるまでには長い年月が必要だということを知り、一つのことにここまで本気になれることに感銘を受けるとともに、尊敬に値すると思いました。今日のために、時間を割いてくださった皆さんに心から感謝します。

菅野さん：テレビなどで見るのとは異なり、迫力があっておもしろかったです。また、小道具を使って、木や刀を表現することもおもしろかったです。さらに、能面や楽器は何年も前から使われているので「道具を大切にすることも、日本文化が素晴らしい理由の一つなんだ」と思いました。狂言「柿山伏」は、小学校の国語の授業のときにアニメーションで見ましたが、狂言で見ても道具を上手に使っていてとてもおもしろかったです。

落合さん：国語の授業で狂言「柿山伏」について学習したことはありましたが、実際に見てみると迫力があっておもしろかったです。また、能「小鍛冶」はワークショップで学んだことを思い出しながら楽しんで見ることができました。役者さんの表情や声や動きで、人物の気持ちや状況が表されていたので「すごい！」と感じました。日本文化について、少し興味がわきました。これからも、日本文化に触れる機会があれば積極的に参加したいです。

次号も、尾中生の振り返りを紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】



鷹のまねをして飛び降りる山伏



鶏の鳴き声をジェスチャー付きで